

次の世代に続く
エコロジーな活動

NEXT STEP

何度でも再生できるプラスチック 100%リサイクルの道を拓く

友晃産業株式会社
代表取締役

おおにし さとし
大西 悟史さん



「難しい素材にも解決策を見つけてくれる社員がうちの財産」と語る社長の大西悟史さん

半世紀以上前からリサイクル率100%のプラスチック再生を実践してきた友晃産業は、当時産業廃棄物とされていたプラスチックを粉砕し、ペレットに加工する会社として1972年に創業。当時はリサイクルという言葉もありませんでしたが、創業者である先代社長は「いずれ時代が来る」の信念でリサイクルに取り組んできたといいます。社長の大西悟史さんにお話を伺いました。

「まずやってみる」の精神

同社が原料とするのは100%が他社で不要になったプラスチック製品で、そ



廃パレットを粉砕した再生原料

れらが無償で、または買い取って再生させています。180も種類があるプラスチックのリサイクル、しかも使用済みのものとなると、汚れや不純物の含有量、水分量などの要因が障壁となり、通常は廃棄されるものが多いそう。大西社長はそうした新たな相談があれば必ず足を運び、その目で確かめています。「種類や成分を見て単純に無理と判断されるものが多いんですけど、僕らからしたらもったいない。やり方は絶対ある、まずやってみようって」。それを可能にしているのが、勤続20年超、ノウハウの宝庫であるベテラン社員の皆さん。さらに昨年には汚れを除去できる洗浄機を導入し、その可能性がさらに広がりました。

廃棄物×廃プラスチックの可能性

近年、SDGsや環境への関心の高まりにあわせ、同社には様々なリサイクルの相談が持ち込まれるようになりました。世の多くの再生プラスチックにはバージン原料と呼ばれる純プラスチックを一定量混ぜることが一般的ですが、100%で再生したいという相談や、プラスチック以外の廃棄物をリサイクル品に生かさないかという相談などです。例えば虫明の牡蠣で知られる日生では、廃棄された牡蠣殻が社会問題になっていましたが、これを粉砕して混ぜ、カーストップに再生。



カーストップは同社の再生プラスチック製品の主力の一つ

炭酸カルシウムの牡蠣殻効果で強度が上がり、割れにくくなりました。

何回でも再生できる エコ素材

商品として生産されている再生プラスチック製品は、カーストップやトラック部品、鉄鋼メーカー向け敷き台などが主ですが、これらは以前は木や鉄、ゴムで作られていたものです。耐久性に優れ、安価な再生プラスチックは、しかも同社の手にかかれば、これからも再生することができます。世間で悪者扱いされがちなプラスチックですが、今こそ真価が発揮される時代が来たと大西社長は語ります。「世界情勢が不透明、原料は高騰する一方の現代でプラスチックも例外ではありませんが、再生原料はまだまだあって、しかも適切に処理すれば何回でも再生できます。すごい素材なんだということが広まって欲しいですね」。



車体を安定させるアウトリガー用ベースは、木製から再生プラスチック製へ変更し、鉄板入りで強度と耐久性を向上

company data

友晃産業株式会社

〒702-8016
岡山市南区小串694
086-269-2277

